

教職支援室便り (2月号)

令和4年 2月 10日 (木)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

卒業生からの便り

昨年3月に卒業して教職に就いた皆さんは、もうすぐ教職1年目が終わります。学校の1年を見通せない中での業務で、本当に大変な1年だったことでしょう。しかし、様々な問題・課題に直面する中で、教職に就いた喜びを感じることもあったと思います。子どもたちが発するエネルギーを、自分のエネルギーに変えて、がんばってきたのではないかと思います。

1月に届いた卒業生からの便り（メール）を紹介します。

あけましておめでとうございます！昨年は大変お世話になりました。

早いもので、教員1年目もあと3か月で終わろうとしています。毎日が新しいことばかりで、次の日の授業準備で精一杯になりながらも頑張っています。わたしが勤める中学校は、県の道徳推進校に指定されており、昨年10月に行われた研究授業では、代表になって授業を行いました。緊張や不安で心も折れそうになりましたが、曾我先生の道徳の授業のプリントを、何度も見返して発問を考えなおしたり、周りの先生方やクラスの生徒たちのエールをもらったりしながら、頑張ることができました。YouTubeに一時期アップされたので、先生にもぜひ見て頂きたかったです。

毎日の生活の中で、子どもたちの言動に一喜一憂しながらも、楽しい学校生活を送っています。また宮崎に行ったときは、先生とたくさんお話ができることを楽しみにしています。

スクールトライアル事業を体験しての感想

先月号に続き、スクールトライアル事業を体験しての、学生の皆さんの感想を紹介します。また、今回は、スクールトライアル事業を受け入れていただいた、学校からの感想等も掲載しています。

学生の皆さんの感想

3日間、子どもたちと触れ合う時間もあり、とても充実していたが、1日中フルタイムで活動することが久しぶりで、終わった後に疲労感があった。しかし、先生方は授業準備と授業、子どもたちとの遊び、研究への取組など、多くの仕事に取り組まれている中で、次の朝には元気に子どもたちを迎えられている。

今回の体験では、今まで見えてこなかった先生方の仕事まで見る事ができた。

今回の体験を通して、先生の仕事に関して多くのことを学ぶことができました。英語科の授業はもちろんですが、生徒指導や進路指導に関することについても、担当の先生からお話を聞き、とても満足しています。

特に印象が強かったのは、授業中にスマートフォンを活用して問題に取り組んだり、出欠確認を行ったりしていたことです。私が高校生するときにはありえなかったことが、行われていたので、非常に驚きました。

今回、3日間のスクールトライアル事業を体験して、生徒の視点からでは絶対に分からない学びを得ることができた。

現在、生徒一人一人にタブレットが配布されるほど、教育の中でもデジタル化が進んでいて、そのような指導方法も視野に入れておく必要があると、気付くことができた。将来私が教員になるときは、今回の経験が必ず役に立つと思う。今後の大学での学びにおいても、生かしていきたいと考える。

大学における学びも大切であるが、教師になるためには、実際に教師の仕事を見学したり、子どもたちと触れ合ったりすることが重要であると感じた。また、さらに教師になりたいという気持ちが高まった。

今回のスクールトライアル事業では、多くのことを学ぶことができたが、社会における礼儀作法についても考えることができた。

学校から一言

スクールトライアル事業において、本学の学生がお世話になった学校（校長先生）から、一言いただきました。

Q. 本学の学生の取組状況は、どうだったでしょうか？

目的意識が高く、スクールトライアル事業を通して、多くのことを学ぼうとする意欲が感じられました。短い期間ではありましたが、昼休み時間など、子どもたちとも積極的に触れ合っていました。この体験を通して、さらに教師になりたいという気持ちが高まったようです。Aさんは誠実な人柄であるので、これから大いに期待できる人材になると思います。宮崎県の教育に貢献できる人になると感じました。

Q. 教員志望の皆さんに望むことは何ですか？

教員志望の皆さんには、いろいろな資質・能力が求められると思いますが、私はまず「協調性」、「誠実さ」、「コミュニケーション力」をあげたいと思います。それらは、指導力向上に不可欠なものです。そして、近年、特別支援教育の視点に立った、子どもたちへの支援の重要性が高まっています。特別支援教育に関する知識・理解が求められます。

また、大学の方でも、服務規律の遵守、コンプライアンス等について、採用される前に、考える場をつくっていただくとよいと思います。

教職特別講座 今後の演習内容

教職特別講座は、後期定期試験、卒論発表会、集中講義の実施を踏まえ、1月17日（月）から2月8日（火）まで実施できませんでしたが、2月9日（水）から再開しています。

学生の皆さんは、これまでの取組により、教職教養のポイントを理解しつつあります。それだけに、今の時期は、問題に慣れることが重要です。また、こつこつと努力していく姿勢を確立することが求められます。教員採用選考試験まで、あと5か月あまりとなる中、学生の皆さんの意欲的な取組を期待しているところです。

3月下旬までの教職特別講座の演習内容を紹介します。

日曜	時限	演習内容（予定）
2月 9日（水）	2	地方公務員法
2月10日（木）	2	教育公務員特例法
2月11日（金）～2月13日（日）		・卒論発表期間
2月14日（月）	2	前半 教育公務員特例法 後半 「学び続ける力を向上させる方策」討論
2月15日（火）	2	教育職員免許法
2月17日（木）	2	学習指導要領の特色 ◇主体的・対話的で深い学び ◇カリキュラム・マネジメント ◇社会に開かれた教育課程 等 前半 学習指導要領演習問題 後半 「主体的・対話的で深い学び」討論
2月22日（火）	2	教育法規演習問題
2月24日（木）	2	いじめ防止対策推進法等
3月 1日（火）	2	いじめ防止対策推進法等
3月 3日（木）	2	前半「いじめ問題」討論 後半 児童虐待防止法 児童福祉法等
3月 7日（月）	2	前半 児童虐待防止法 児童福祉法等 後半 「児童虐待問題」討論
3月 8日（火）	2	発達障害者支援法 障害者基本法 障害者の権利に関する条約 障害者差別解消法
3月10日（木）	2	前半 「発達障害のある児童生徒への対応」討論 後半 学校保健安全法 学校給食法 食育基本法
3月15日（火）	2	前半 学校保健安全法 学校給食法 食育基本法 後半 「学校安全問題」討論
3月17日（木）	2	道德教育・道徳科
3月22日（火）	2	前半 「道德教育の充実の方策」討論 後半 教員の資質・能力の向上 コミュニティスクール
3月25日（金）	2	前半 「教員の資質・能力の向上に係る方策」討論 後半 不登校問題
3月29日（火）	2	前半 「不登校への対応の在り方」討論 後半 学習指導要領等の改善（答申）
3月31日（木）	2	前半 体罰防止に関する通知文等 後半 「体罰防止の方策」討論

道徳の教科化に思う！（シリーズ57）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「教材・二わのことり」に関する発問（構成）及び解説等を掲載します。

1 教材名

「二わのことり」

2 出典「教科用図書」

日本文教出版 東京書籍 学研教育みらい 光村図書 光文書院 廣済堂あかつき
学校図書

3 対象学年

小学校1年生

4 ねらい 内容項目B－（9）「友情、信頼」

自分の都合や損得で、友達への接し方が変わること気付かせながら、友達と仲よく助け合うことの大切さを感得させ、みんなで明るく生活しようとする心情を培う。

5 教材内容（概略）

小鳥たちは、やまがらからお誕生会の招待状をもらうが、その日はうぐいすの家で音楽会の練習がある日だった。小鳥たちは、遠くの山のさびしいところにあるやまがらの家より、明るくてきれいなうぐいすの家での音楽会の練習の方がよいと、うぐいすの家に行ってしまう。みそさざいも気にはしながら、うぐいすの家へ行ってしまいが、さびしく待ちわびているであろうやまがらのことを思うと、じっとしていられなくなり、こっそりと抜け出して、やまがらの家に飛び立つ。さびしく待ちわびていたやまがらは、みそさざいの姿を見て目に涙を浮かべる。

6 発問（構成）

Q1. うぐいすの家に行くか、やまがらの家に行くか、迷っているとき、みそさざいはどんなことを考えていたでしょう。

◇補助発問～音楽会の練習はいつでもできるけど、誕生日は1年に1度ではないですか。

Q2. うぐいすの家にいるとき、みそさざいは、どんな気持ちだったでしょう。

◇補助発問～そんなに思うのであれば、すぐにやまがらの家に飛んで行けばいいのではないですか。みそさざいに声をかけてあげてください。

Q3. みそさざいはどんな気持ちから、やまがらの家に行くことを決めたのでしょうか。

◇補助発問～他の小鳥たちから、後でいろいろと言われてもいいのですか。

Q4. やまがらの家で、みそさざいとやまがらが会ったとき、二わはどんな気持ちだったでしょう。

◇補助発問～みそさざいとやまがらになって、二わの気持ちを考えましょう。
(役割演技)

・みそさざい役の児童

「やまがらさん、おそくなってごめんね。たんじょう日、おめでとう」

・やまがら役の児童

「ありがとう。・・・・・・・・」

7 解説

本授業では、まず1年生が対象であることを踏まえ、児童が教材内容を十分に理解して学べるよう、読んだ直後の指導を工夫する。具体的には、みそさざいの言動を中心に、4つの場面（①どちらの家に行くか迷う場面、②うぐいすの家で過ごす場面、③やまがらの家に飛び立つ場面、④やまがらと会う場面）について、それぞれに関係する絵を時間的経過に沿って提示し、どのような場面なのかを自由に発表させながら、黒板に掲示する。また、うぐいすの家は近くの明るいところであり、やまがらの家は山奥のとてもさびしいところにあることを、板書の中でおさえておく。これにより児童は、教材内容を理解するとともに、話し合う場面を把握し、展開前段の学習の流れがつくられることになる。

次に展開前段においては、体験的な活動も取り入れながら、次の4つの基本発問を軸に展開する。

① 「うぐいすの家に行くか、やまがらの家に行くか、迷っているとき、みそさざいはどんなことを考えていたでしょう。」

- ◇ やまがらのことが気になりながらも、うぐいすの家は近くの明るいところにある（やまがらの家は山奥のとてもさびしいところにある）ことを考えるなど、自己の都合や損得で判断したり、他の小鳥たちの考えに左右されたりする、みそさざいの弱さに気付かせる。そのために、補助発問「音楽会の練習はいつでもできるけど、誕生日は1年に1度ではないですか。」を問い、みそさざいを批判することで、みそさざいを弁護する反応を多く引き出し、共感を誘いたい。

② 「うぐいすの家にいるとき、みそさざいは、どんな気持ちだったでしょう。」

- ◇ 全然楽しくないみそさざいの様子をおさえた上で、やまがらのことが気になってしょうがない気持ちを話し合う。そして、「やまがらの家に行かなければ」という感情が、徐々に高まってきていることに気付かせる。その際、補助発問「そんなに思うのであれば、すぐにやまがらの家に、飛んで行けばいいのではないですか。みそさざいに声をかけてあげてください。」を投げかけ、児童がみそさざいに決心させる場を設定する。これは、児童がみそさざいに深く自我関与しながら、みそさざいの立場で、価値実現に向かうことができるよう計画するものである。

③ 「みそさざいはどんな気持ちから、やまがらの家に行くことを決めたのでしょうか。」

- ◇ やまがらのことを考えると、じっとしてられない、がまんできない感情になったみそさざいについて話し合うが、そこには、やまがらへの深い思いやりがあることに気付かせたい。また、1年生の発達段階を踏まえ、その判断力や心情について意味付けをする、教師の助言（つぶやき）を期待したい。さらには、補助発問「他の小鳥たちから、後でいろいろと言われてもいいのですか。」と投げかけ、みそさざいの強い気持ちを浮き彫りにする。

④ 「やまがらの家で、みそさざいとやまがらが会ったとき、二わはどんな気持ちだったでしょう。」

- ◇ ここでは、体験的な活動（役割演技）を取り入れ、児童がみそさざいとやまがらの立場になって、それぞれの気持ちを考える。みそさざい役の代表児童「やまがらさん、おそくなってごめんね。たんじょう日、おめでとう」に対して、やまがら役の代表児童が、そのときの気持ちを表情や言葉で表現する。そして、それを聞いたみそさざいの気持ちを、表情や言葉で表現する学習を展開したい。その後、ペア学習の形態で、全員の児童が役割演技を体験する活動へと発展させる。